

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月10日(金)
- 3 開催場所 可児高等学校 会議室
- 4 参加者

学 校 側	会 長	榎野 聡	可児高校PTA会長
	委 員	市原 崇光	可児市商工会議所副会頭
		松井 慶子	元可児高校PTA役員
	安藤 麻記子	可児市役所産業振興課主任	
	菰田 さよ	可児市国際交流協会	
	杉浦 浩子	岐阜医療科学大学看護学部学科長	
	總山 俊行	校長	
	二村 文敏	教頭	
	内藤 崇	教務主任	
	川島 隆史	生徒指導主事	
	山下由香理	進路指導主事	
	永田 匠	記録	
	堀江 菜那	記録	
	委 員	吉田 毅	坂戸地区自治会長 (欠席)
副 会 長	太田 紀宏	西可児中学校校長 (欠席)	
	大野 広喜	事務長 (欠席)	

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクール・ポリシーについて

意見1：現在のスクール・ポリシーを教師全員が理解し、一体感をもって学校運営に取り組めるよう浸透させてもらいたい。

意見2：スクール・ポリシーをはじめ、校長先生から聞いた可児高校の取組について、少しずつ成果が出てきている。管理職のリーダーシップで今後も引き続き改革を継続してもらいたい。

意見3：可児高校のスクール・ポリシーから、現在、中学校の使命や中学校が抱える課題について再考した。可児高校のスクール・ポリシーは、高校として多様な生徒を育てる環境や教師の役割を踏まえて作られている。今後、さらに中高連携を意識していくことで、実感を伴うものになっていくことを期待する。

意見4：可児高校のスクール・ポリシーを踏まえた取組から、大学の魅力は何か、高校生のニーズは何かについて学ぶことができた。高校と大学の連携から、地域にとって魅力ある可児高校、岐阜医療科学大学となるよう協力していく。

(2) 可児高校の取組の年間反省及び次年度への課題等について

意見1：今年度、何度も訪問したが、可児高校が変わりつつあることを実感してきた。入学志願者が増えたのは効果的な広報のおかげだと感じている。是非、新入生にはどうして可児高校を選んだのかなどリサーチし、生徒・保護者にとって魅力ある学校になりよう活かしてもらいたい。

意見2：入学志願者が定員を割り込んでいる状況に心を痛めていたが、広報活動の成果で変化が見られたことを喜んでいる。不登校の問題などの課題はあるが、学校生活が楽しいという雰囲気が伝わるよう、生徒を温かく見守ってもらいたい。

意見3：可児市の商工会議所内でも可児高校が変わってきているとの意見も出ている。これからもできる限り支援していく。

意見4：探究の時間で、生徒が自ら地域に調査に出かけ、様々な大人と関わりながらまとめた発表の様子を見ることができた。このような地域との関りがとても大切だと思う。生徒にとっても貴重な体験になっていると思う。

意見5：生徒の探究の発表を見て、大学としてそういった経験、学びをしてきた生徒を受け入れ、より発展させていく必要性を感じた。コロナ禍で様々な制限がある中で、生徒の元気な姿が見られて良かった。

意見7：積極的な広報活動による効果が良い方向につながっていると感じる。どのような手法や回数など、これまでと変えたことがあれば教えてほしい。

⇒できる限り多くの学校に訪問し、生徒が作成した動画を活用し、学校説明をした。動画は、生徒が勉強だけでなく部活動や学校行事、探究活動等を通して、様々な体験をして進路実現に向かって学校生活を送っている様子が見られ、非常に良い反応であった。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会は今年度最後の協議会として、スクール・ポリシーや今年度の取組の反省と次年度への課題等について協議した。また第1回、第2回に引き続き、授業参観（総合的な探究の時間）も行った。

授業参観では、探究活動の発表を行った生徒に対して委員から直接、生徒の励みとなる言葉や調査に関する質問、フィードバックがあった。協議では、校長の「今後の可児高校の方向性について」との話を受け、本校の広報活動を中心とした改革の効果を認めてもらいつつ、今後の可児高校の発展につながる意見や期待の言葉を得た。

今年度の取組の反省や課題等を踏まえ、次年度も学校運営協議会を軸に教職員が一体となって教育活動の充実及び地域への広報活動に取り組みながら学校運営を推進していく。